

「喜心を胸に」

島根県 慈照院住職 佐瀬悠真

「喜心」とは、自らが為すべきことを喜びをもって行う心で、私の支えとなっている教えです。

私は大学を卒業して、大本山永平寺へ修行に行きました。永平寺で最初に配属されたのは、典座寮という仏様や祖師様へお供えするお膳や、修行僧の食事を作る部署でした。

典座寮では「典座教訓」について学びました。「典座教訓」は、大本山永平寺を開かれた道元禅師が「食」について書かれた書物です。私は、その本の中で、三つの心と書く「三心」を特に大切にしたいと思いました。「三心」とは、喜びの心と書く「喜心」、老いるに心と書く「老心」、大きいに心と書く「大心」のことを言います。

一つ目の「喜心」は、喜悦の心、与えられた持ち場を喜びと受け取り、心から信じ従う心。二つ目の「老心」とは、父母の心、何事も相手の身になって心を運び、いたわりの心情をもって常に親切にしてあげる心。三つ目の「大心」とは、大山不動の心、周囲に振り回されず、大山の如く相手に協調していく心。この三つの教えである「三心」は、深く心に残った教えです。

典座寮での役目を終え、その他の部署に転役してからも、この教えが 心の支えとなって、様々な困難を乗り越えることができました。しかし、もう少し早くこの教えを知っていれば、また違う学生時代を送れたのではないかと思えます。

私は小学校から大学まで、野球に打ち込んでいました。しかし、部活動では、多くの苦しい思い出が残っています。野球の世界では、よく「やらされる練習をするな」といわれます。私自身、学生時代の練習は辛く、正直「やらされる練習」ばかりしていたように思えます。そこに「喜心」、自らが為すべきことを、喜びをもって行う気持ちがあれば、練習に対する姿勢が変わっていたかもしれません。これからも「喜心」の教えを忘れず、日々を 過すしていきたいと思えます。

